

# 牛が最高の癒し

## 雇用農業女子

### PROFILE

こうづま かえで  
高妻 楓さん  
酪農 就農歴2年(昭和村)

25歳。埼玉県蕨市出身。東京農業大学農学部バイオセラピー学科卒。2015年より「AK牧場」に勤務

## 牛とふれあい、身体を動かす 毎日の仕事を楽しんでいきます！

### 大好きな動物にふれあう仕事がしたい

幼い頃から動物が好きで「水族館か動物園で働きたい」と夢を抱いていた楓さん。東京農業大学在学中には学芸員の資格を取得しましたが、水族館や動物園の求人は極めて少なく、就職は狭き門。次に楓さんが興味を持ったのが、牧場での仕事でした。「外で体を動かす仕事がしくて。大学では動物介在療法の研究室に在籍していて、馬や牛など大きい動物のお世話に魅力を感じていました」

実家の埼玉県に近い関東近郊での就職先を求める中、楓さんが出会ったのが昭和村にある「AK牧場」でした。プライベートな時間を確保するため寮ではなく一人暮らしがしたいという楓さんの希望にもマッチ。何よりも、求人サイトに掲載されていた集合写真のアウトホームな雰囲気惹かれたといいます。実際にAK牧場で働く正

規従業員5名の内、女性は楓さんだけが、「特別扱われることもなく、働きやすい職場です」と話します。

就農してすぐ、生後6ヶ月までの子牛の世話を担当することになった楓さん。粉ミルクの調合など正確性が求められる細かな作業が多く、女性である楓さんに向いていると考えた須藤社長の勧めでしたが、楓さん自身、やりたかった仕事だと言います。「就職の面接に来た際、子牛のお世話を体験させてもらい、とても楽しかったです」

現在も生後6ヶ月までの子牛、約20頭の世話を奮闘する毎日。朝7時に牧場に来て、まずは子牛の体調をチェック。些細な変化も見逃さないよう、一頭一頭の様子を丁寧に見て回ります。「牛は体調が悪いと耳が垂れるんです。下痢をしていたらミルクの量を減らして薬を与えます」